

第40回

“水とのふれあい”フォトコンテスト
特別賞

「四季折々の自然と水」入賞作品



タイトル：砂丘のオアシス
撮影場所：鳥取砂丘
撮影者：山内 勝

CONTENTS

巻頭言 新年のご挨拶	02
水資源機構 理事長 金尾 健司	
【特集】	
今までもこれからも地域とあゆむ	
<small>2025年も水資源機構の多くの施設が節目の年を迎えました。今号では、4つの事業について、事業のあゆみや果たしてきた役割について、地域のみならずへの感謝の気持ちを込めて特集記事として紹介します。</small>	
房総導水路管理開始20周年を迎えて	04
四国四県で水をつないで半世紀 <small>(吉野川総合開発50周年)</small>	10
筑後川のめぐみに感謝して <small>(両筑平野用水管理開始50周年)</small>	12
ちっごとともに歩む <small>(筑後大堰管理開始40周年)</small>	16
【トピックス】	
海外における 社会課題の解決に向けた取り組み <small>—最近の水資源機構の国際業務—</small>	22
【連載】	
気象キャスターが解説! 天気のカタ	26
第42回 気候ストライブが語る未来 気象キャスターネットワーク 名倉 直美	
水機構ニュース	28
読者の声・施設紹介・編集後記	36

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

気候変動による気象災害リスクが年々高まっており、令和7年も全国各地で自然災害をもたらしました。8月に熊本県を中心に時間110ミリもの大雨を観測した豪雨は、数年に一度程度しか発生しないような大雨で発表される「記録的短時間大雨情報」が15回も出されました。10月に発生した台風22号及び23号では、伊豆諸島の八丈島・青ヶ島を中心に、記録的な大雨と猛烈な風により大きな被害を残し、災害前の日常を取り戻すにはまだ時間を要する状況にあります。

また、令和7年の日本は記録的な猛暑で、観測史上最も暑い夏を経験しました。夏の平均気温は3年連続の記録更新で、歴代最高気温を5地点で更新するとともに、猛暑日の延べ地点数も歴代最多となりました。一方で、ほとんどの地方で梅雨入り、梅雨明けがともに早く、7月の降水量は日本海側を中心に、記録的な少雨となりました。

7月30日に発生したカムチャツカ半島付近を震源とするマグニチュード8.7の巨大地震では、日本の太平洋沿岸一帯を中心に津波警報が発令され、北海道や東北地方の沿岸で津波を観測したあと注意報に切り替えられ、翌31日には全面解除となりましたが、地震発生から3日目となる8月1日の夕方、南米沿岸からの津波反射波でやや高い津波が観測されているとして、海面変動に注意する旨の津波予報が追って出されました。この複雑な潮位変動の影響で、利根川河口堰の黒部川水門が開き塩水が遡上する事態となりましたが、迅速な操作と緊急対策の実施で取水への影響は

最小限に食い止めることが出来ました。

このような気候変動や大規模自然災害等によるリスクへ対応するため、国土審議会と社会資本整備審議会は「水災害による被害の最小化」、「水の恵みの最大化」、「水でつながる豊かな環境の最大化」を実現させるための「流域総合水管理」に関する答申をまとめ、令和7年6月に国土交通大臣に提出しました。

水資源機構は、流域治水の取組として関係者と治水協定を締結して事前放流を実施し、洪水時にダム下流への放流量の低減を行うなど、流域治水を担う機関としての役割を果たしてまいりました。また、気候変動に対応した治水機能の確保・向上、カーボンニュートラル、地域振興といった社会的要請に対応するための「ハイブリッドダム」の取組の一環としてダム運用の高度化に取り組んでおり、流域の関係者の理解と協力を得て取り組むことにより、「流域総合水管理」の推進に貢献しています。

しかしながら、気象災害リスクの高まりに加え、近い将来の発生の切迫性が指摘されている大規模地震のほか、昨年は埼玉県八潮市での下水管の破損に起因する道路陥没事故がありましたが、施設の老朽化対策など、水資源機構を取り巻く状況は厳しさを増すばかりです。こうした諸課題にしっかり対応すべく、実用新技術の開発・実装支援、あらゆる分野におけるDX推進など、様々な取り組みを行っているほか、令和7年度から業務の集約化、防災時を含めた機能的な業務運営、さらにOJTを通じたスキルアップの強化を図るため、出先の事

務所を総合管理所に大括り化しました。また、「気軽に(Easily)、楽しく(Enjoyable)、思いをこめて(Engagement)」の頭文字をとった「3E作戦」と称して、水資源機構が、利水者の皆様や地域の方々にとってより身近で親しまれる組織となるような広報活動にも積極的に取り組んでいるところです。

水資源機構は、国民生活や社会経済活動に欠かせない水の安定供給と国民の生命と財産を守る重要な使命を担う組織です。また、上流の水源地から中下流部の水路ネットワークを一体的、広域的に管理するインフラ管理のノウハウを持った技術者集団であり、そのための高度な技術やノウハウを兼ね備えた「水のプロ集団」です。

今年の4月には第六期中期目標期間がスタートします。様々な課題に対して、新たに策定する中期計画に基づき、水資源開発施設の適切な事業の推進に努めてまいります。また、私たちの事業は、水源地域をはじめ地域の皆様の協力をいただくことで成り立っており、水源地域の地域創生に向けたブランディングなどを通じた地域振興へも寄与してまいります。

本年が皆様にとって良き一年となりますことを祈念しつつ、本年も引き続き皆様方からのご支援ご協力をお願いいたします。



独立行政法人 水資源機構
理事長 金尾 健司